

平成 29 年度全国学力・学習状況調査及び市学力調査の結果について【中学校】

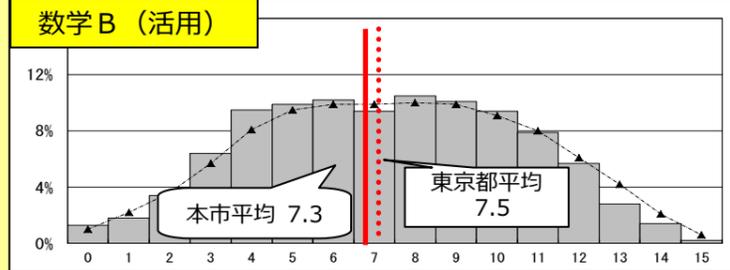
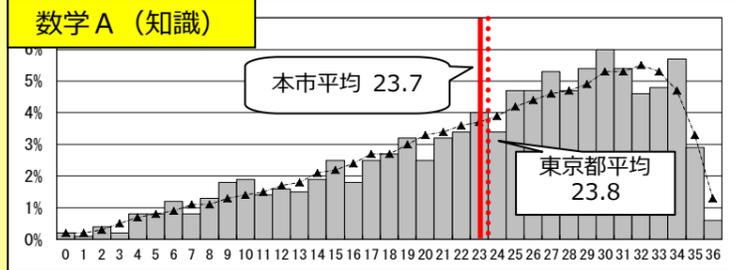
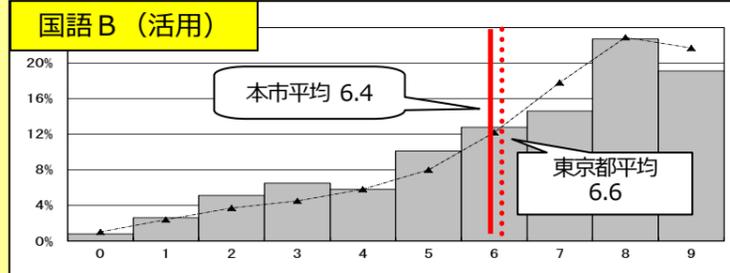
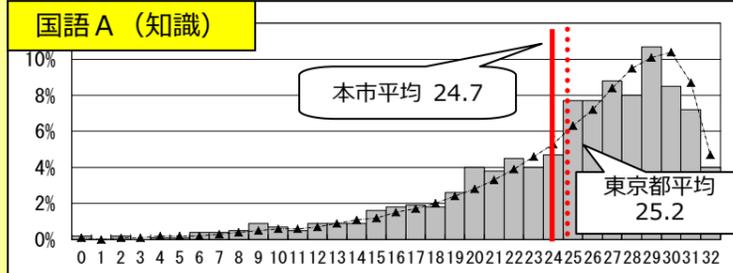
学力調査結果の公表の考え方

義務教育の目的は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことにある。本市における、この義務教育の目的の学力面での達成状況を明らかにするため、学力調査の結果に基づき、(1)基礎的な学力の定着状況と、(2)児童・生徒の一人一人の学力の伸長の度合いを市全体及び学校ごとにまとめ公表する。また、この調査結果を、今後の教育活動の一層の改善・充実を図っていくための基礎資料とする。

学力の定着状況について 平成29年4月18日実施 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果より

正答数分布

※縦軸：児童の割合(%) 横軸：正答数(問) ※棒グラフ：東久留米市 折れ線グラフ：東京都



平均正答率(全国)未達の生徒の割合(%)

教科	本市	東京都	全国(公)
国語 A (知識)	37.5	34.7	38
国語 B (活用)	43.6	37.6	40.2
数学 A (知識)	41.7	42.6	45.3
数学 B (活用)	51.9	49.9	54.4

平均正答数(問)

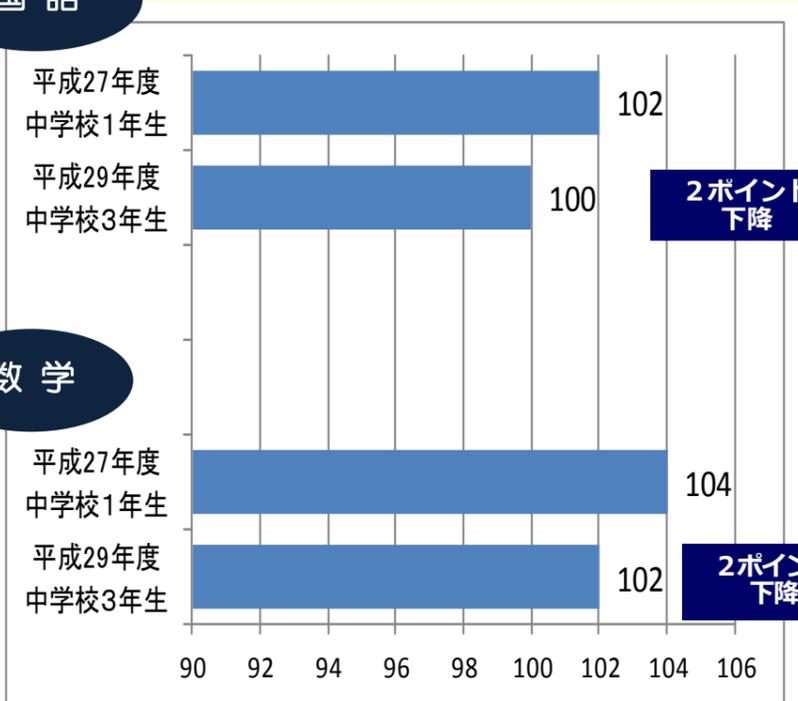
教科	問題数	本市	東京都	全国(公)
国語 A (知識)	32	24.7	25.2	24.8
国語 B (活用)	9	6.4	6.6	6.5
数学 A (知識)	36	23.7	23.8	23.3
数学 B (活用)	15	7.3	7.5	7.2

※全国学力・学習状況調査対象学年：小学校 6 年生・中学校 3 年生

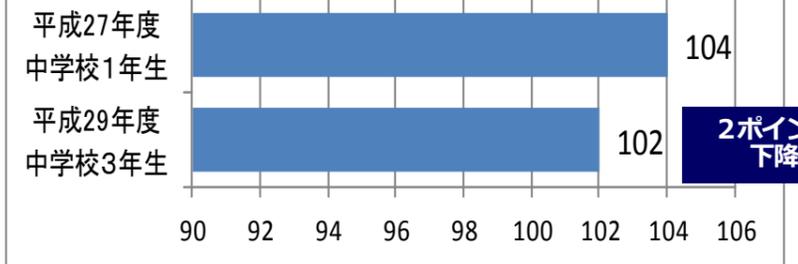
学力の伸びについて 平成29年4月11日実施 平成29年度市学力調査より

平成27年度中学1年生と平成29年度中学3年生(同一生徒)の平均点を、それぞれ全国平均を100とした指数に換算し、伸びを比較

国語



数学



東久留米市確かな学力の伸長を図るための調査対象学年：小学校 3 年生・小学校 5 年生・中学校 1 年生・中学校 3 年生

調査結果の概要

見犬・果腹

【概要】

- 国語 A・Bは、正答数の多い層が厚く、数学 A・Bは幅広く分布しており、正答数が少ない層が厚い。
- 平均正答率(全国)未達の生徒の割合は、全ての項目で東京都平均よりも多かった。国語 A、数学 A・Bで全国平均を下回った。
- 平均正答数は、全ての項目で東京都平均を下回った。数学 Aで全国平均を0.4ポイント上回った。

【各教科の課題】 ※全国平均より下回っている課題のうち顕著なもの

《国語》「文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くする」「文脈に即して漢字を正しく書く」「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する」などに課題が見られた。

《数学》「錯角の意味を理解している」「関数の意味を理解している」「与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解している」「二元一次方程式を関数を表す式とみて、そのグラフの傾きと切片の意味を理解している」「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」などに課題が見られた。

【概要】

- 国語において、平成27年度中学1年生では、全国平均値を2ポイント上回っていた。平成29年度中学3年生では、全国平均値と同じ数値となった。
- 数学において、平成27年度中学1年生では、全国平均値100を、4ポイント上回っていた。平成29年度中学3年生でも、2ポイント上回ったものの、2か年で2ポイント下降した。

【各教科の課題】

※全国平均より下回っている課題のうち顕著なもの

《国語》「国語への関心・意欲・態度」に課題が見られた。

《数学》「数学への関心・意欲・態度」「数学的な技能」に課題が見られた。